

たまねぎレポート【第419号】



令和4年9月26日

阪南青果株式会社

社内報

8月の天候は、気温は沖縄・奄美でかなり高かった。降水量は北・東日本の日本海側と北日本の太平洋側でかなり多かった一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。日照時間は沖縄・奄美でかなり多かった。9月に入っても残暑が厳しく、8月の豪雨に続く、台風の接近・上陸で農作物にかなりの被害が発生した。気象庁が発表した10～12月の3か月予報は、次の通り。

10月、北日本と東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。

東・西日本の日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。北・東日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。西日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

12月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の8月の野菜の販売量は、212,420トン前年比97%(前月比105%)、平均単価はkg ¥243前年比108%(前月比102%)。市場別には多少のバラツキがあるものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥205前年比106%。東京市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg ¥259前年比107%。名古屋市場の販売量は前年比93%、平均単価はkg ¥237前年比110%。大阪本場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥239前年比109%。福岡市場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥201前年比108%となっている。

建値市場の8月の玉葱の販売量は22,652トンで前年比89%、(前月比125%)、平均単価はkg ¥136前年比137%(前月比84%)。北海物の出回りで販売量が前月比25%増となり、平均単価は前月比16%安で相場は軟化傾向に転じる。市場別では、札幌市場の販売量は3,489トン前年比101%、平均単価はkg ¥114前年比152%。東京市場の販売量は9,087トン前年比85%、平均単価はkg ¥137前年比135%。名古屋市場の販売量は4,880ト

ン前年比85%、平均単価はkg ¥ 135前年比138%。大阪本場の販売量は3,064トン前年比86%、平均単価はkg ¥ 151前年比141%。福岡市場の販売量は2,132トン前年比109%、平均単価はkg ¥ 149前年比133%となっている。

日本農業新聞社の主要7地区における代表卸7社が販売した、8月の主要野菜14品目の販売量の集計と平均単価は次のとおりである。販売量は97,711トン前年比4%減、平年(過去5年平均値)比5%減。平均単価はkg ¥ 148前年比7%高、平年比2%安となっている。販売量が前年比増の品目は、ブロッコリーが161%増、キュウリとナスが7%増、レタスが1%増など7品目。販売量が前年比減の品目はニンジンが20%減、ハクサイが11%減、ダイコンが9%減、タマネギが7%減など7品目。前年比高となった品目はダイコンがkg ¥ 111で44%高、タマネギがkg ¥ 113で35%高、ピーマンがkg ¥ 351で28%高、トマトがkg ¥ 352で27%高など7品目。前年比安の品目は、ブロッコリーがkg ¥ 169で前年比58%安、ハクサイがkg ¥ 62で22%安、レタスがkg ¥ 112・ジャガイモがkg ¥ 123でいずれも17%安など7品目。となっている。

東京都中央卸売市場の8月の野菜の入荷量は、113,025トン前年比96%(前月比103%)。平均単価はkg ¥ 259前年比107%(前月比103%)で、主要15品目で入荷が前年比増の品目は、レタスが前年比106%、ナスが103%、キャベツが101%の3品目。入荷が前年比減の品目は、ナマシイタケが前年比の84%、タマネギが85%、ハクサイが87%、ニンジンが90%、パレイシヨとサトイモが91%など12品目。価格が前年比高の品目は、ダイコンがkg ¥ 138で前年比148%、ネギがkg ¥ 403、タマネギがkg ¥ 137でいずれも135%、ピーマンがkg ¥ 424で131%など9品目。前年比安の品目は、ハクサイがkg ¥ 59で前年比73%、レタスがkg ¥ 144で83%、ナスがkg ¥ 281で8

7%、バレイショがkg¥142で88%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の8月の入荷量と単価

品目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	113,025	95.9	102.6	259	107.0	102.8
たまねぎ	9,087	84.7	120.5	137	134.9	84.1
キャベツ	16,899	101.1	102.4	69	92.3	88.5
はくさい	6,276	86.5	105.5	59	72.8	95.2
だいこん	6,793	92.7	109.0	138	148.1	99.3
にんじん	5,670	89.6	108.9	144	109.8	85.7
ばれいしょ	4,592	90.9	107.7	142	87.7	144.9
レタス	9,818	106.2	102.2	144	83.3	134.6
トマト	7,429	90.6	106.6	401	127.9	121.9
ねぎ	3,356	97.2	103.8	403	134.9	109.8
かぼちゃ	1,987	85.6	94.4	187	120.5	85.4
ながいも	794	89.8	82.3	305	95.1	104.8
れんこん	606	99.7	219.3	425	92.9	57.1
にんにく	198	101.5	104.2	887	76.1	96.2

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の8月の玉葱の入荷販売量は9,087トン前年比85%
(前月比121%)。主力は北海物で入荷量は7,349トン前年比94%、占有率

は81%前年比8ポイントアップ。兵庫物は896トン前年比46%、占有率10%前年比8ポイントダウン。富山物は212トン前年比108%、占有率は2%前年比0.5ポイントアップ。総平均単価はkg¥137前年比135%(前月比84%)。産地別では、北海物はkg¥130前年比131%、兵庫物はkg¥204前年比179%、富山物はkg¥120前年比138%となっている。

9月に入って、府県産地の殆どが切り上がり、北海産地の出荷が本格期を迎えたが、生育順調で豊作型と伝えられ、北海物の入荷が待望されていたものの、入荷は予想されたほど増えず、市況は高水準を維持した。天候による収穫・出荷の遅れはあるものの、中旬の入荷は前年比4%増に留まっている。球肥大は良好で、L大中心の球流れで、2L、L大は下値中心の販売となった。此処に来て、入荷は増加傾向となり、品種はオホーツク222に切り替わっているが、皮ムケ、肌傷みが目に付く。昨今では転送業者の売り込みも活発化している。

9月1日～20日の玉葱の入荷販売量は6,859トン前年比109%、平均単価はkg¥119前年比110%。主力は北海物で占有率は96%を占めている。産地別では、北海物の販売量は6,608トン前年比110%、平均単価はkg¥118前年比109%。兵庫物は33トン前年比34%、平均単価はkg¥205前年比169%となっている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の8月の玉葱販売量は4,880トン前年比85%(前月比111%)で前年比減、前月比増となっている。主力は北海物で、販売量は3,564トン前年比103%、占有率は73%前年比13ポイントアップ。兵庫物は792トン前年比44%、占有率は16%前年比15ポイントダウン。富山物は143トン前年比112%、占有率3%前年比1ポイントアップ。愛媛物は102トン前年比6240%、占有率は2%前年比2%アップ。総平均単価はkg¥135前年

比138%(前月比83%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥128前年比135%。兵庫物はkg¥187前年比172%。富山物はkg¥152前年比155%。愛媛物はkg¥61前年比37%。となっている。

9月に入り、北海物の入荷が安定化傾向となり、売れ行きは鈍化傾向となった。月半ばまでは、過度の在庫を抱えることもなく、捌けてきたが仲卸を始め小売り筋にも先安感が台頭し、月後半の苦戦が予想された。昨今では台風の影響で輸送が乱れ、入荷減となったものの、在庫があり数量的に困っていない。荷動きは左程悪い訳ではないが、転送業者は、市場相場よりも¥200前後の安値で売り込んで来るので、苦労が絶えない。品種はオホーツク222に替っているが、腐敗混入のクレームが絶えない。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の8月の玉葱の販売量は3,064トン前年比86%(前月比109%)で前年比減、前月比増となった。産地別の販売量は、北海物が1,655トン前年比101%、占有率54%で前年比8ポイントアップ。兵庫物は1,374トン前年比75%、占有率45%で前年比7ポイントダウン。総平均単価はkg¥151前年比141%(前月比96%)。産地別の平均単価は、北海物はkg¥126で前年比131%、兵庫物はkg¥182前年比156%。となっている。

9月に入って、出荷が本格化した北海物も、予想した程の出回り量でなく、全国的に品薄傾向で、転送業者からの引き合いが強く、堅調相場が続いた。入荷が大幅な減少傾向となった兵庫物は、こだわり筋の引き合いが強く、値上がりへ転じた。月後半になり、北海物は台風接近の影響で、輸送が不安定化し入荷が少なく、堅調相場を維持した。兵庫物は入荷減を反映して値上がり傾向となった。昨今では、転送需要がなくなり、北海物は弱保合に、兵庫物は強保合の相場が続いている。

9月1日～20日の玉葱の入荷販売量は、1,26トン前年比112%、平均単価はkg¥132前年比111%。産地別では、北海物は1,763トン前年比124%、平均単価はkg¥117前年比110%。兵庫物は351トン前年比75%、平均単価はkg¥209前年比154%。となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の8月の玉葱販売量は、2,132トン前年比109%(前月比115%)で、前月に続き前年比、前月比とも増となっている。主力は北海物で、販売量は1,458トン、前年比113%、占有率68%前年比2ポイントアップ。佐賀物は349トン前年比80%、占有率16%前年比6ポイントダウン、中國物は206トン前年比181%、占有率10%前年比4ポイントアップ。総平均単価はkg¥149前年比133%(前月比96%)で前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、北海物はkg¥135前年比121%。佐賀物はkg¥202前年比176%。中國物はkg¥113前年比135%。となっている。

9月に入ってから、入荷は北海物オンリーの日が続いている。どの銘柄の荷口も殆ど2L、L大で占められている。入荷は安定化傾向で、荷動きは鈍化傾向となった。日ごとに品余り傾向が強まり、市場内関係者(卸・仲卸)にも多少の在庫が見受けられる様になった。他方、仕切り値は産地の要請で変わりなく、販売は厳しさを増している。昨今の入荷は、日量120トン程度だが、L大が殆どの荷口もあり、L大の在庫が積み上がっている。実勢相場で販売すると損失が大きいため、価格維持の販売に努めているが、既に限界に達している。

9月1日～20日の玉葱販売量は1,680トン前年比98%、平均単価はkg¥128前年比117%、入荷は前年比減、単価は前年比高となっている。

9月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 販売量199トン 強い

北 海 20kgDB2L ¥2,000～1,500、L大 ¥2,200～1,500、L ¥2,200～1,600、
M ¥1,800～1,400。

【太田市場】 販売量419トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,300～2,100、L ¥2,200～2,000、
M ¥2,200～2,000。

【名古屋北部市場】 販売量136トン 保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,200～2,000。L ¥2,200～2,100、
M ¥2,100～2,000。

【大阪本場】 販売量179トン 強保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～1,800、L大 ¥2,200～1,800、L ¥2,200～2,100、
M ¥2,200～2,000。

兵 庫 10kgDB2L ¥2,500～2,200、L ¥2,500～2,300、 M ¥2,400～2,000。

【福岡市場】 販売量257トン 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L大 ¥2,400～2,000、L ¥2,400～2,200、
M ¥2,200～2,100。

供給(産地)の動き

9月に入り、市場は北海物の独壇場となったが、天候の影響や輸送面の問題もあり、豊作の割に出荷は伸びず、市場価格は高値水準を維持した。産地では昨シーズンの異常高値の余韻が残り、豊作型で前年比24%増の出荷が見込まれているにも拘わらず、販売希望価格は実勢価格を上回っている。出荷が本格化した9月も価格先行型の出荷が多く、荷受けを始め需要家とに温度差が

生じている。昨今、卸の間では仕切り値と市場価格に逆鞘現象が発生し、苦しい販売を続けている会社は多いと聞く。出荷進捗は計画通りと言われているも感触的には、後ずれ傾向である。出荷の後ズレは後顧の憂いを招く可能性があり、要注意である。亦、今年産は病害の発生が散見され、出荷先からは選果要注意の警告が多く、中晩生は厳選に努め評価を落とさない様にされたい。

府県産の冷蔵物は前年比大幅減で、高値市況に引かされて出荷は前進化傾向で年明けの供給が危ぶまれている。

北海道産地

昨シーズンの市況は、後半異常高値で推移し生産者を始め、関係者の経済環境の向上に貢献した。今シーズンの作柄は豊作型で、ホクレンの予想では出回り量は前年比124%と予想されている。今シーズンも早や出しの早生種の販売価格は前年を上回る高値販売がつづいている。今シーズンの玉葱は潜り玉で、早生種も泥皮が剥がれず、光沢不良で見劣りしたが、昨今では好天が続き風乾が進み、見栄えが良くなっている。早生種は大粒で、小売店の販売に沿わなかったがこの先、出荷は中晩生に移行し、L大、L中心の玉流れになり、過大玉が減少する。

府県産地

佐賀産地では、播種・育苗の最盛期にあるが、昨シーズンの異常高値を反映して作付増が期待されたが、種子の配付量を見る限り、前年並みかやや増加に留まりそうである。玉葱栽培に対する意欲はあるものの、生産者の高齢化が進み、人手不足に阻まれ栽培意欲はあるものの、肥培管理の対応力の伸びは期待でない状況にある。労力に比べ生産性の優位な早生系が増反、中晩生は減反の動きにある。

兵庫の淡路島では、即売物の高値に続き、冷蔵物も異常高値を更新してい

る。在庫減で希少価値化していることが、最大の原因だが、地域ブランド化で高値でも品質の良い淡路者を要望する消費者が多く、市場サイドからの引き合いは強い。業務・加工筋でも価格に拘わらず、周年淡路物を使用したいとの要望が多くなっている。既に、関西市場では、北海物の20kg詰めよりも、淡路物の10kg詰めが高くなっている。此の俣では、春先までの販売計画が年内に切り上がる可能性がある。現在は、次シーズンの播種・育苗期だが、生産者の高齢化と人で不足で栽培面積は、前年維持かやや増が精々と見られている。

輸入動向

8月の輸入量は速報値で、22,082トン前年比127%。予想外の輸入増となった。9月から北海産の出回りが本格化することや、価格が北海産に比べ割高になる見通しから、前年同月比では減少に転じる。と予想していたが、逆に増加した。国別数量は、主力の中国が21,731トン前年比129%。ニュージーランドが278トン前年比54%。オーストラリアが66トン前年比264%。となっている。

中国、今年の生産量は、減反・減収となっているほか、赤玉の作付が増え、黄玉の作付が減っている。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・剥き玉 \$ 11.00~10.80。皮付 \$ 10.40。韓国向けは10.50の模様。

アメリカ、今シーズンの作付面積は73,918エーカー（前年比98%）。日本向け主力のワシントンは21,850エーカーで前年比101%。ワシントン州の作柄予想は、平年並みで品質は良好。サイズは平年よりやや小粒で球締りは良好。収穫のピークは9月後半。アイダホ・オレゴンは減反と高温で5~10%の収量減の予想。現在の日本向け価格は、50㍍・C&F・Jサイズ・ \$ 20~18。Mサイズ \$ 16~15。と報告されている。

10月の市況見通し

9月の玉葱の出回り量は、感触的には前年を上回ったものの、予想を下回ったと思う。末端需要も伸び悩み、増収減量となった店が多い。総じて荷動きは鈍化傾向であったが、市況の続落はなく、チリ貧傾向に終わった。10月は、北海産地主導の販売が強まり、市場サイドは産地追随型になると予想される。従ってホクレンの出荷姿勢が市況を左右する。産地側では昨シーズンの高値相場の余韻が残り、L大、L¥2,000 以下は安い受け止め、需要側では高いと受け止める雰囲気にある。10月は食欲の秋、中心相場はL大、L¥2,000～1,800 の攻防になる。と見ている。体調不良で発行の遅れたことを謝す。(笹野敏和記)